

令和3年度第2回保護林管理委員会における意見概要とその対応について

議事	委員からの主な意見	対応の方向性など
<p>現地視察後の主な意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホソバタブが選択的に食害されている。地域の代表種なので、重点的に保護するエリアについては樹皮の保護ネットなどの対策が必要。ただし、古い食痕が多いため、シカ密度は下がっている可能性がある。 ・かつては多くいたカモシカ生息の痕跡がない。将来、カモシカが帰ってくるには緑の回廊は非常に重要。 ・広葉樹植栽後に防護柵を設置すれば、元の植生に戻る可能性があるのではないか。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・保護林では、もう少し積極的にシカ柵設置や捕獲の実施を検討してほしい。 ・利用面では、地元住民にこの素晴らしい森林をどうやって見せていくかを考えてもよい。 ・価値を見出すため、昆虫、鳥類等の学術調査利用も行ってほしい。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・一般の人たちにシカによる森林への影響が分かるように、シカの被害箇所と防護柵により守られた本来植生箇所とが比較できるような区域を設けてはどうか。 ・急峻な所に林道ができており、かえってシカの移動の助けになっている面がある。林道によるシカの移動を効果的に阻止する方法を検討する価値があるのではないか。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・綾は生態系上位種のクマタカがくまなく分散生息しているため、風力発電施設の設置場所としては極めて難しい場所だと思う。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・人工林を照葉樹林に復元する試みについて、スギは現在自然分布していないが、何万年のタイムスケールでは分布はあったもの。スギを完全に無くすのは、現実的には非常に困難であり、多少残っても容認できるのでないか。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・①地形が急峻、②風当たりが強い、③根元を中心に林冠木が弱まっている、の3つが連携すると地表崩壊のような後退現象が進む危険がある。この貴重な生態系を残すためには、できる限りシカ捕獲を促進することが重要。 ・広葉樹林化への試みについて、シカ被害前の取組場所は比較的順調に生育していたのに対し、シカ被害後の取組場所ユズリハの純林になっていた。タイミングが非常に重要。 ・複層林化で広葉樹林を目指す場合、強度な間伐をして光環境を改善しないと無理ではないか。ただし、保全利用地区の場合、どのように更新していくかが大きな課題。まずは、シカ捕獲を強化し、シカ被害が及ばない段階までを、綾で試験的に取り組む必要。 	<p>ご意見を踏まえ、綾の照葉樹林プロジェクトとも連携しながら取り組んでまいりたい。</p>
<p>(1) 令和3年度第1回保護林管理委員会における意見概要とその対応について</p>	<p>高隈山生物群集保護林の管理方針書(案)について、植生帯名称としてアラカシ帯というのは、あまり使わないので、シイ帯などに修正した方がよい。</p>	<p>修正済み。</p>

課題	委員からの主な意見	対応の方向性など
(2) 緑の回廊に係る設定方針の改訂等について	<p>「環境影響評価手続等において確認すべきこと」と書かなければいけない理由について教えていただきたい。そもそも評価すべきこととして位置付けるのが設定方針書としては普通ではないのか。</p>	<p>再エネ関係が前提となっているのでそのような位置づけとなっている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・リスト作成に際しては、各動物種毎に、どの調査や報告書で確認されたか、出典も分かるようにしていただきたい。その際、各県のレッドリストのカテゴリーを必ず入れること、さらに、その動物種が選ばれた判断基準がわかるように整理いただきたい。 	<p>各委員にメールにて送付済み。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・植物は本当に種類が多い。データを見てから改めて判断したい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「調査すべき情報」の中に猛禽類の保護のところを書いてある、①、③、⑥が何を調べるものか、よく分からないのと、それから狩り場の分布が抜けている。「調査すべき情報」の①から⑥がどういうことを表しているのか、確かめていただきたい。 	<p>議事5の資料に反映。</p>
(3) その他(報告等) ②稲尾岳周辺森林生態系保護地域を利用区域に含むトレイル大会開催への対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・トレイルランについて、イベント会社から後出しで止まっているという声を聞く。イベントの開催条件とその条件を付す理由についてもっと整理する必要があるのではないか。 	<p>環境省が作成したトレイルランニングのガイドラインを参考にすることを基本として、現地の状況、地元や運営側の意見などを踏まえ、個々の状況に応じて対応してまいる考え。</p>